

平成17年度 試験研究（中間）評価整理表

整理表2

試験研究機関名 ハイテクプラザ
所管グループ 産業創出グループ

| 整理番号 | 施策目標等 | | 試験・研究課題名 | 研究目的 | 研究概要 | 試験研究期間 | | | コメント | 外部評価アドバイザーのコメント | 評価結果の反映状況(予算要求・手法・その他) |
|------|---------------|--------------|--------------------|---|---|--------|----|------|----------------------------|---|---|
| | 施策目標 | 研究課題分類 | | | | 初期 | 終期 | 評価結果 | | | |
| 1 | 社会環境対応型の新技術開発 | ニーズ対応型研究開発事業 | 歯科用材料及び虫歯予防技術の開発 | 大臼歯咬合部の小窩裂溝を塞ぎ、虫歯を予防することを目標とする。このため歯と強固に結合する材料と、微小空間に粉体を導入する技術を開発する。 | まず、TCP粉体合成技術の確立と評価をし、小窩裂溝充填システムの構築と評価を行い、最終的には、虫歯予防効果の評価を行う。 | 16 | 18 | B | 計画どおり進行しており、このまま継続すべきである。 | 必要な研究であり計画も妥当であると思うが、治療段階の実用化を目指すとき、施術時間の短縮化を目指した技術開発が鍵となる。 | 施術時間の短縮化を目指した技術開発の検討を踏まえて研究を行うために18年度予算に計上した。 |
| 2 | 地域特性を生かした技術開発 | ニーズ対応型研究開発事業 | 食卓回りを中心とした食器・家具の開発 | 消費者は製品の使い勝手に不満があり、この使い勝手・製造の問題に対して、今回取り上げる研究で得られる製品開発方法により、産業工芸分野における社会的要請に応えていく。 | 産業工芸分野におけるユニバーサルデザイン実現方法確立とこれに基づく食卓の場面における食器(お椀、茶碗、皿)や家具(テーブル、椅子)等の製品開発を行う。 | 16 | 18 | B | 産業会・消費者とも関心が高いため、継続すべきである。 | ユニバーサルデザインとしてのユーザビリティ評価は重要であると思うが、使用者の好みや身体的条件、デザインの美しさなどの多様性があり、心理学的な面も含めた評価は必要はないか。 | 当然、心理学的な評価も含めた上で使用者の立場に立った製品開発を行う。この研究は18年度予算に計上した。 |